松江市男女共同参画センター情報誌

プリエール

2025
SPRING

一番人気の
出前講座

いざという時に
役立つ

避難所運営ゲーム“HUG”

災害時、避難所に避難してきた人々や発生するさまざまな問題にどのように対応していくかを模擬体験するゲームです

誰もが安全で安心できる避難所に

インタビュー

能登半島地震・災害派遣から
被災した人々の心身の健康をサポート

Content―

■誰もが安全で安心できる避難所に

■インタビュー　・松江市　こども子育て部　こども家庭支援課
保健師 高田 真由子さん

■インフォメーション
・4月は若年層の性暴力被害予防月間

プリエールとは男女共同参画センターの愛称です。フランス語で願い・祈りの意味を持ち公募によって決まりました。

誰もが安全で安心できる避難所に

能登半島における女性の声

多くの避難所において、女性の視点が欠如していた

阪神淡路大震災から30年、昨年元旦に起きた能登半島地震から１年、大きな災害が起きる度、「女性の視点」が必要と指摘されていましたが、能登半島地震では、避難所の運営等における男女共同参画の視点が十分に反映されていない事例がありました。

物資担当者は男性ばかり。
下着を選んでいるときに
男性が見ている状態。

炊き出しに、一日7時間。
睡眠が2，3時間しかない
日が続いた。

更衣室は用意されず、
着替えるところがない。
プライバシーが守られない。

避難所内での男性による、
つきまといがあった。
警察ができたのは、
防犯ブザーを渡すくらい。

県外の応援チームが派遣されてきたが
全員男性。（派遣の必要性を聞かれて）
避難所運営を行った男性が「女性(の職員)は
特にいらない」と答えてしまった。

背景には

- 防災分野において意思決定の場や災害の現場に女性がいない。
- 避難所の役割に運営は男性、炊き出しは女性と性別で役割分担を決めつけるなど。

地域の防災に女性が積極的に参画し「女性の視点」を取り入れよう！

被災者の
半数は女性

性別役割分担
意識を無くす

災害の現場に
女性が参画する

被災者に寄り添った支援

災害において女性と男性のニーズの違い等を認識し、配慮していくことが必要です。

被災者の多様なニーズに答えるためには、女性は大きな力になります。男女ともに一緒に防災対策を進めていく事が大切です。

参考資料：内閣府

平時から防災対策を考える

石川県珠洲市の当時の写真（2024年3月）

2024年3月19日から6日間、能登半島地震で建物の倒壊や津波で大きな被害が出ている石川県珠洲市に入り、自宅で避難されている被災者の健康相談など保健師として活動された高田真由子さんにお話を伺いました。

少しでも被災された方々に寄り添い 地域のチカラになりたい！

◆現地の様子はどうでしたか

被災から2か月以上が経過してもなお、水道が復旧しておらず、道路は大きくひび割れ土管も隆起したまま、多くの家屋等が全壊しているなど本当に言葉が出ないくらいの痛ましい状況でした。

◆何か戸惑ったことはありませんか

先の見通しが立ちにくく、避難が長期化し、大変な生活を強いられている方々に対して、なんと声をかけたらよいのだろうかと、非常に悩ましく感じたのを覚えています。それでも、限られた時間の中で自分にできることは何かを考え、少しでも被災された方々や地域の力になり、今後につながるように活動しました。

大切なことは「助け合うこと」

誰もが悲惨な状況の中で、お互いに声を掛け合い前を向いて頑張ろうとしている住民の方々に、温かく迎え入れて頂き逆に元気づけられました。また、地域のコミュニティの大切さも改めて実感できました。

◆今後、災害が起きたときの心構えは

女性･こども･高齢者に配慮を

近年では、未曾有の災害が、いつどこで起きてもおかしくない状況です。災害が発生したときに出来る限り迅速かつ適切に対応できるよう、平常時から、有事の際の準備をしておくことが必要だと考えます。特に女性やこども、高齢者など、避難生活を送るうえでどのような配慮が必要か、皆が理解し意識することが大切ではないかと感じます。

能登半島地震・災害派遣から

インタビュー

松江市　こども子育て部
こども家庭支援課

保健師

高田 真由子さん

「被災高齢者等把握事業(県事業)」
「被災者見守り･相談支援等事業(市事業)」に基づいて、被災された方々のご自宅に訪問。
心身の健康状態など生活に支障が起きてないか等確認し、必要に応じて相談先などの情報提供や支援機関へのつなぎ等を行う。

現地で見えてきた課題

情報が入ってこない

生活に必要な物資や公的支援等タイムリーな情報が届かず、十分に支援を受け取れない状況に直面

トイレ・入浴事情

市内至る所に仮設トイレ・自衛隊の設置した入浴施設があり、中には、女性用品が設置されているところもありました。屋外のトイレは衛生面や保安面で女性は利用しづらい面も

高齢者に使いづらい電化製品

最新式のIH対応電化製品など、利用したことのない高齢者は、使い方がわからず、配布されてもそのまま放置し、利用されないことも

4月は若年層の
性暴力被害予防月間です

INFORMATION

令和7年度 若年層の性暴力被害予防月間「ポスター」（内閣府）

性犯罪・性暴力は、重大な人権侵害であり、決して許されません。政府は、若年層の性被害に関する問題を広報啓発するのに適した入学・進学時期である4月を、毎年「若年層の性暴力被害予防月間」として、広報・啓発を集中的に実施しています。

巧妙になっている10代・20代に対する性暴力

SNSを利用した性被害、酔わせて性的行為を強要、レイプドラッグ、JKビジネス、AV出演被害、痴漢、セクシュアルハラスメント等、10代・20代に対する性暴力の手口が巧妙になっています。

被害にあわないために

- 「アイドルに興味ない？」「簡単にお金をかせげるよ」に注意しましょう。
- 友人・知人からの勧誘だからといって安心してはいけません。また、友人・知人だからといって「断わりにくい」という理由で、少しでも不安に思うこと、イヤだと思うことに同意しないようにしましょう。
- 気軽に個人情報を教えたり、身分証明書を渡さないようにしましょう。

「JKビジネス」は危険なアルバイト
絶対に働いては ダメ！

性暴力の悩み、ひとりで抱え込まないで。性別・年齢を問わず、相談できます。

SNSで相談

Cure time
（キュアタイム）

電話で相談

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	性犯罪被害相談電話（警察）
＃8891（はやくワンストップ）	＃8103（ハートさん）

女性相談

TEL 相談電話専用 **25-2602**

法律相談は事前面談が必要です

相談は全て **無料**

【面接相談・電話相談】

受付時間　月・火・木・金
10:00～16:00
祝日・年末年始除く

女性相談員があなたと一緒に考えます。なるべくご予約ください。

【法律相談】 <女性弁護士>要予約

毎月、第2、4木曜日
10:00～12:00　原則30分程度（面談のみ）

【カウンセリング】<女性公認心理師>要予約

毎月、第1、3火曜日
10:00～14:00　原則60分程度（面談のみ）

一人で悩まないで相談してください。一緒に考えましょう！

松江市男女共同参画センター
〒690-0061　松江市白潟本町43市民活動センター（スティック）3階
TEL 0852-32-1190　FAX 0852-32-1191
E-mail:danjo@city.matsue.lg.jp

［開館時間］9:00～17:15

［休館日］土日、祝日、年末年始

●交通のご案内
JR松江駅から徒歩10分
天神町バス停ななめ前
松江大橋南詰め下車徒歩3分